園だより

令和７年１月１日

社会福祉法人新田保育園

園長　大西　陽子

のびゆくすがた

高校を出て、進学のために上京し、30 年以上経過しました。この間、実家から送られた宅配便の数を数えてみると、とんでもない数になることでしょう。最近は、父母も年齢を重ね、回数は減りつつありますが、米や畑の野菜を定期的に送ってくれるのです。箱を開けると、実家の匂いや親の思いを感じ取り、泣いたことも数回あります。そんな実家からの宅配便の中に、書類の束が入っていました。開けてみると、それは私の小１から高３までの成績表でした。

私の出身地の小学校の成績表は、タイトルに「のびゆくすがた」とあります。そのため、学期末家に帰ると「のびゆくすがたをもらってきたか？」と家族。「はい、のびゆくすがた」と手渡す私。成績表や通知表という言葉は使用しませんでした。

見ると、学業の成績はおおむね、記憶のとおりでした。しかし、担任の先生が書いた「所見」の部分に目を奪われました。当時の先生は歯に衣着せぬ表現で、子ども時代の私を評価していたからです。小１「みんなの前で発表する事は控えめで嫌います」小４「係の仕事は活発ではありませんでした。自分から進んでリーダーとなって、グループ活動をしたり友だちの世話をしてほしいと思います」ん？私は後日園長職を預かって大丈夫なのか？

小中学校時代の自分の姿を思い返すと、「人前に出るのは好きでなかった」「人様の面倒を見るタイプでもない」「ふざけてばかりで、学級委員もキャプテンもやったことがない」という事実があります。母にラインで「のびゆくすがた、先生の所見がひどくて笑った」と送ると「そうやったかな。記憶が無い」という返信。母は「うちの子はこんな感じ」と先生と同意見だったのでしょうか。そしてこの「のびゆくすがた」というタイトルが、『これは、この子の人生の、のびてゆく途中の姿である』ということを表現しており、子どもにとって逃げ道があるタイトルであると気が付きました。この言葉は、考え抜かれた素晴らしいタイトルなのだと。

さぁ、令和７年がはじまります。今年も子どもたちは、「のびゆくすがた」を見せてくれることでしょう。様々、その子の姿がありますが、保育園時代の子どもの姿は、始まったばかりの人生の途中の姿です。まだまだこれから伸び、変わっていきます。「のびゆくすがた」を楽しみ、育んでまいりましょう。ちなみに、高３の先生の所見には「進境著しかった。人気者であった」と書かれていました。どうやら私は高３で、のびがあったようです。あぁよかった。自分自身も子どもたちに負けず、これからものびてゆく人間でありたいです。のびてゆく人間として、子どもたちも職員も保護者の皆さまも全員で成長していく、そんな新田保育園でいきましょう。本年も、「みんなでつくる、みんなの新田保育園」を、どうぞよろしくお願いいたします。

	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
1月				保育初め		頭シラミ確認				もちつき・誕生会・写真撮影				ぞう組個人面談	健診（0・3歳）	避難訓練	みかん組懇談会				健康体育	ことり組懇談会		お店屋さんごっこ						ぞう組人形劇観劇